

伊勢湾貧酸素情報（第3報）

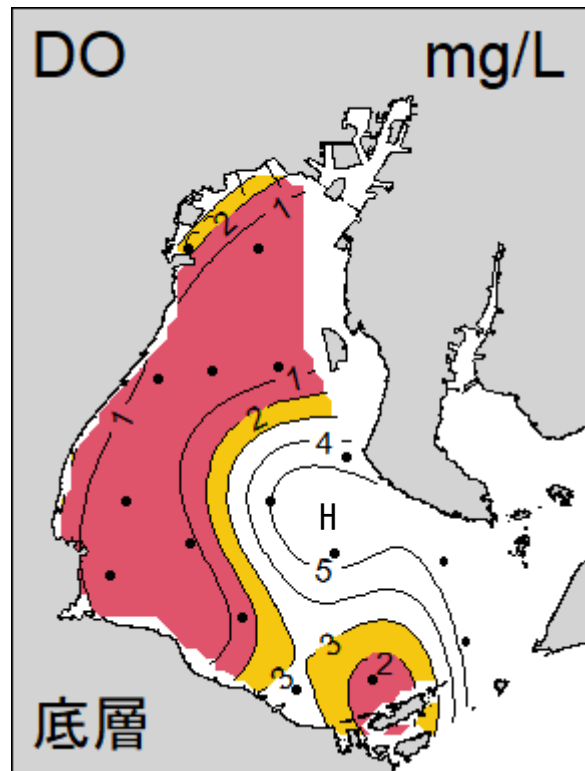
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

湾奥～三重県側の広範囲で2 mg/L以下の貧酸素水塊が確認されました。

8月6日の調査結果

8月6日の漁業調査船「あさま」の浅海定線観測によると、水温は表層で29.6～31.9℃、10mで22.4～25.4℃、底層で19.4～25.6℃の範囲にあり、平年と比べて表層はかなり高め、中層、底層共にやや高めとなりました。

DO（溶存酸素濃度）は表層で6.4～8.5 mg/L、10mで0.5～4.9 mg/L、底層で0.1～5.6 mg/Lの範囲にあり、平年と比べて表層はやや低め、10mはかなり低め、底層は湾中央部でかなり高め、湾奥～三重県沿岸および鳥羽市の離島周辺で低めとなりました。（表層の上端値を8.6から修正）



底層貧酸素水塊分布図

湾口～湾中央部にかけて、湾の東側の海底を、低温・高塩分・高酸素濃度の外海水が強く進入し、これらの海域に存在していた貧酸素水塊は中層および三重県沿岸域に押し出された模様です。中層の貧酸素水塊は、6～7mの比較的浅い層にも見られており、ごく沿岸域の貝類資源にも影響を与える可能性が考えられます。また、今後も高い気温が予想されており、外海からの酸素供給が失われれば貧酸素水塊がさらに拡大する可能性があります。操業にあたっては、引き続き貧酸素水塊の動向に十分に注意してください。